

2 1 5

こんにちは。塾長の大井です。

5期生 M さん受験戦記第7回(最終回)です。

夕方になり、入試が終わっている5期生も全員が集まって来ました。

すでに合格をとった子だけでなく、まだ決まっていない子も、自分の夢は破れた子も、M さんの合格の瞬間に立ち合うために集まりました。最初はバラバラに思えた個性派集団は、最後の最後で見事なまでの one team になっていました。

合格発表があと30分を切り、M さんは「あー、もうすぐだあー！」と抑えきれないように声を上げました。

時間が迫り、いつものように私の机を囲みます。あと10分、あと5分…、その瞬間が近づくにつれ、誰の顔にも緊張と高揚と期待が交錯します。

「発表だ！来る！」

そう言って合格者の番号一覧を隠します。

そして、少しずつ少しずつ番号が見えるようにズラしていきます。前にも書きましたが、遊んでいるわけではありません。

全てこの日のために、この瞬間に歓喜するためだけに、何年も全てを注いできたのです。簡単に見られようはずがありません。

合格者の番号は飛びまくっています。予想はしていましたが、本当に狭き門です。

「うわあ、厳しい。何倍だこれ…。」

みんなからも思わずため息が漏れます。

合格者が少ない分、あっという間に M さんの番号付近に近づきます。

「次だ！M、いくぞ、開けるぞ！」「うん！お願い！」「来い、来い！」

130251。

「やったあああああ！！」

「あった！受かったあ！！」

最高の瞬間でした。

みんなで揉みくちゃになって狂喜しました。自分がダメだった子も、自分のことのように心から喜び、M さんを祝福しました。

合格した M さんだけでなく、受験は彼らをひと回りもふた回りも大き

く成長させました。

それは本当に胸が震えるような、言葉にならないほどの一体感でした。

この合格が教えてくれる真実があります。秋の面談で「直前にもまだ伸びるのでしょうか？」とよく聞かれます。答えは、絶対的に YES です。

直前どころか、1月練習校、2月本番の1日1日の中でも、毎日 TOP の子どもたちは伸びていきます。そして、積み重ねてきた技術、歴史、想い、絆、そして覚悟。そんな全てが結集できた時、TOP 生はいつも合格を引き寄せてきました。

M さんの場合はそれが 2 月 4 日だった。

もちろん、気づくのが早いほど、自分の内なる意志が早く生まれるほど、到達点は高くなります。

直前期、小6の夏講、小6スタート時、小5。いつだって構いません。

本気を出すのに早すぎることはないのです。そして矛盾するようですが、幸せな受験をするのに、遅すぎることもありません。

M さんはすぐにまひろさんに電話しました。

「まひろ先輩が言ってくれた、ひとりで戦っちゃダメだってこと、本当

によく分かりました！」

「よかったねえ！おめでとう！」

歓喜に沸く中で田宮がしみじみと言いました。

「ホントに受かったよ…。すごいよこれ！」

田宮は豊島3回目での合格は初めてです。

私も自分の身の上にこんな劇的なことが2回も起こったのが信じられない想いでした。

「大井先生とじゃないと絶対に受からなかった。」

それは私も同じ想いでした。他ならぬ田宮とだから、そしてMさんとだから出せた結果でした。

開成の繰り上げ合格2回、浦和明の星の繰り上げ合格4回、そして豊島岡3回目での合格が2回。

もしかしたら、正規で通す力がないだけかもしれません。

でもおそらくは、どこよりも心を注いだTOPだからこそ、誰よりも誠実に歩んできた師弟だからこそ、受験の神様が選んでくれたのだと信じています。

たとえ最後の一席になっても、そこに座るのはTOP生だ。

そう言えることを私たちはずっとしてきました。

これこそが TOP 生の受験道です。

そんな自分の受験を M さんは熱く熱く語ってくれました。入試を目前にした 6 期生たちは彼女の話を一心に聞いていました。

そして、M さんに負けず劣らずの劇的な受験が、彼らを待っていたのです。

5 期生受験戦記完、

6 期生受験戦記につづく。

2020 年 7 月 3 0 日

大井雄之